

全国の火山活動状況

気象庁観測部地震課

気象庁が常時火山観測を実施している桜島・阿蘇山・浅間山・伊豆大島の4火山については、昭和50年1月以降3月末までの活動状況を、その他の火山については、報告をうけたものについて状況を要約した。また常時観測を実施していない火山の状況については、各機関・大学の調査や報告を要約した。

第1表 火山情報発表回数
(昭和49年11月～50年3月)

回数	火山名	桜島	阿蘇山	浅間山	三原山	秋田駒ヶ岳	三宅島	雲仙山	霧島
定期		5	5	5	5		2	1	1
臨時		2	2			1			

第2表 全国火山活動概況
(昭和49年11月～50年3月)

火山名	11月	12月	1月	2月	3月
桜島	▲	▲	▲	▲	▲
阿蘇山	▲	▲	▲	▲	▲
伊豆大島			△		
十勝岳	△				
樽前山		△	△	△	
秋田駒ヶ岳				△	
新潟焼山	△	△			
西之島				△	
南硫黄島北東沖		▲	▲		
鶴見岳		△	△	△	△
諏訪之瀬島	△	▲	△	▲	×

注：▲噴火 △異常現象 ×未報告

桜 島

昭和49年の最盛時の活動には及ばないながら、爆発をくり返し、1月：11回、2月：29回、3月：41回を数えた。とくに2月下旬から活動が激しくなり、2月21日から3月2日まで10日間にわたり、爆発が毎日起こり合計18回となった。同様に3月12日から21日までも爆発が連続し、合計27回となった。このように爆発が長期にわたり連続するのは、活動の高まりを示すものである。2月28日00時13分の爆発では、かなり大きな空振を人体に感ずると同時に、赤熱噴石が5合目付近まで多量に飛散した。

3月7日から噴煙活動に移行し、11日から12日にかけては振幅の大きいB型地震の群発があり、経験的に溶岩上昇と判断された。

12日15時ごろから約2時間にわたり、きわめて振幅の大きいB型地震とC型地震の群発が起こり、火口に近い京都大学桜島火山観測所では、1時間にわたり持続的に震動を人体に感じたほどであった。

3月12日16時24分の爆発は地震最大振幅が61 μ で、宮崎市で爆発による空振を人体に感じた。また3月24日00時45分には、1分以内に爆発が2回続けざまに起こった。いずれも小爆発であったが、新たな活動現象である。2月下旬からの活動の特徴の一つとして、B火口の活動が卓越してきたことがあげられる。3月中の噴煙について火口別観測回数は第2A火口の39回に対し、B火口73回となっている。B火口の活動が今後持続性をもつかどうかは、南岳の活動様式にも変化を及ぼすだけに注目を要する。

4月1日、桜島の新島（燃島）南部の砂浜が陥没したが特に被害はなく、4月8日、桜島付近で全日空機のフロントガラスが破損し、火山の噴石が原因ではないかといわれている。

阿 蘇 山

中岳第1火口では、白色噴煙から2月2日以降は灰かつ色噴煙に変わり14日まで続いたが、2月18～20日に再び灰かつ色多量の灰を含んだほかは白色となった。鳴動は1月下旬から2月2日にかけてやや強く、山上広場（火口から約1Km）でも聞こえたが、3日以降は弱まった。噴石活動は2月18日から始まり、3月に入っても14日・17日・18日・19日にもあった。大きさはこぶし大～人頭大で、高さは火口底から70～80mで、火口内に落ちる程度。3月15日には降灰があったが、火山活動は衰えつつある。

3月中の火山性地震回数は149回で、1月の619回、2月の188回より少なくなっている。孤立型微動^{*}回数は1月6708回、2月5335回、3月2193回と次第に少なくなっている。

1月22日から阿蘇付近に発生した有感を多数含む地震は2月中旬以降減少したが、これに関連しているところ、火山性の表面現象は現われていない。

* 阿蘇山測候所では、昭和48年8月から従来の孤立型微動を火山性のB型地震として取扱ってきたが、阿蘇山の特殊性、統計上の問題や一般に孤立型微動として利用されてきた歴史的背景を考慮すると、必ずしも妥当でない。このたび気象庁地震課、福岡管区气象台、阿蘇山測候所で検討した結果、成因が解明できるまでは、孤立型微動に戻し、観測統計しなすとの結論に到達した。

浅間山

B点における地震回数は、1月1554回、2月839回、3月1324回で、昭和49年における月平均375回に比べ、大幅に増加した。しかし表面現象には異常は認められず、平静な状態が続いた。

伊豆大島

噴煙はほとんどみられず、微動も記録されていない。1月7日、20日、23日、27日、28日に有感地震を含む火山性地震が多数発生したほかは、火山性地震も少ない。

南硫黄島北東沖の海底噴火

1月31日、同島の北東9.3kmの海域で海面汚濁が確認された（グアム発東京行の日本航空機による）。なお同海域は昭和49年12月24日、在日米軍が新島出現と報じたほぼ同地点である。

草津白根山

（草津町役場、前橋地方気象台、気象庁地震課）

昭和49年12月10日以降、逢の峰パトロール小屋に地震計を設置し、本火山の活動状態を監視している（観測点：湯釜南方約0.8km、倍率：5000倍）。

49年12月10日～50年3月22日（103日間）に、本火山体に関係して起こつたとみられる地震回数は186回で、その発生状況は第3表のとおりである。3月上旬に増加がみられ、3月8日、9日のひん度はいずれも9回であつた。ただ昭和47年および48年の機動観測時と比較して、地震活動が特に活発とはいえない。

第3表 草津白根山地震回数

月 旬	1 2	1	2	3
上	1 [*]	1 2	1 7	5 7
中	4	5	3 0	1 9
下	9	8	2 2	2 ^{**}
計	1 4	2 5	6 9	7 8

* : 49.12.10から
** : 50.3.22まで

秋田駒ヶ岳

（仙台管区気象台、2月20日15時、臨時火山情報）

2月19日午後、秋田駒ヶ岳の女岳から白煙が上がっているのが、盛岡市、平石町、田沢湖町などから遠望された。20日午前、自衛隊機の観測によると、以前から噴気の多かった女岳北側斜面の地熱地帯で蒸気の立上るのはみられたが、噴煙は認められなかった（当日は盛岡からも遠望されなかった）。

現地調査、测温、ガス検知

秋田大学鉱山学部鉱山地質学教室から仙台管区気象台を経由し、第1図のような報告があつた。

西之島新島（杉浦委員報告）

2月25日、第三管区海上保安本部羽田航空基地所属YS-11。702号機、本田機長撮影写真によれば、新島・旧島接続部の南側にかなり濃い変色水域があり、南西方向に流れているのが認められる。湾内にはかなり広い範囲にわたり淡黄色変色水があり、特に旧島の東側は顕著である。なお本年2月5日の観測時には変色水は認められなかった。

したがって西之島新島は再び活動を開始した模様である。なお変色水の範囲は写真上からは判断できなかった。また浸食および堆積作用によって海岸の地形が変化した、その詳細は判明したい連絡する。

樽前山（苫小牧測候所。3月13日報告）

火山性と思われる地震が昨年12月以降増加しているが、2月18日ころから減ってきて、3月に入ってから日ひん度は4～5回となっている。遠望観測では特に変化は認められない。

月	49/8	9	10	11	12	50/1	2	3
地震回数	30	32	21	74	130	337	345	79

三宅島（3月1日。火山情報）

2月28日、雄山の現地観測を行なったが、前回（11月14日）と比較し、噴気地帯の温度・ガス等に特別変化はなく、異常は認められなかった。

新潟焼山（2月28日、3月5日、31日高田測候所報告）

ことしに入ってから、噴煙の場所・高さ・色に変化ない（白色少量）。3月4日11時と15時に糸魚川市で、爆発音を聞いたという報告があったが、天候不良のため確認できなかった。

鶴見岳（2月28日、3月31日、大分地方気象台報告）

噴気活動は最初のころと変わりなく、白色噴気を高さ100～150mくらい上げている。

諏訪之瀬島

諏訪之瀬島分校および中之島支所から鹿児島地方気象台を経由しての報告によれば、49年11月～50年2月の活動概況は次のとおりである。

11月 ときどき鳴動をきく（諏訪之瀬島分校）

12月 ときどき噴火

1月 ときどき鳴動をきく（諏訪之瀬島分校）

2月 噴火